



上塩浜自治会『みんなのひろば上塩浜』の編集メンバー
小さな頃から上塩浜で兄弟のように育った幼なじみ6人からかわら版を制作している



5月の鯉のぼり祭り。大きな鯉のぼりをつくって川に浮かべ、鯉の滝登りをイメージ。ゴールデンウィーク期間中でもあり、多くの見物客で賑わった



3月のペットボトルキャンドル。千々石町で行われる日本一の松明行列「観櫻火宴」に合わせ、約500本のキャンドルを防波堤と砂浜に灯した

つたふるけん 雲仙市 Unzen City

地域をつなぐ
かわら版には
みんなの笑顔が
あふれています



『みんなのひろば上塩浜』
平成21年5月創刊、月1回発行、A4サイズ、カラー1ページ。
記念すべき100号は4ページで、多くの住民の写真を掲載した

ふるさとの未来のために 作り続けるかわら版

目の前に美しい千々石海岸が広がる、雲仙市千々石町の「上塩浜地区」。世帯数の少ない小さな自治会ですが、9年前から毎月発行しているかわら版『みんなのひろば上塩浜』が8月で100号を迎え、過疎地域に元気を与える取組として注目を集めています。

上塩浜地区は、昔はイワシ漁や煮干しの製造などが盛んに行われ、地域にも活気がありましたが、平成に入ると漁業が衰退し人口も年々減少。特に、平成21年3月に同地区の子ども会が解散したことは、自治会関係者にとって大きなショックでした。

「このままでは、地域に元気がなくなってしまう。残っている子どもたちのためにも、なんとかせんばいかん」と立ち上がったのが、上塩浜自治会の公民館館長の前車吉郎さんら6人の有志。「地域をつなぐ、何か核になるものを作りたいたい」という思い

いから、地域の話題を提供するかわら版を自治会活動の一環としてスタートさせました。

メンバーが毎月公民館に集まり、持ち寄った素材をもとに片山「一さん」がパソコンで編集。地元で行われるイベントなどを中心に、「元気な高齢者の紹介や」「〇〇さんに孫が生まれました」「〇〇くんが中学生になりました」「集会場に手すり設置！」など、上塩浜地区に密着した情報が住民の笑顔と一緒に掲載されています。

「世帯数の減少とともに地域の人間関係も希薄になっていきましたが、かわら版にいろんな情報が載ることによって話題が共有でき、会話の機会も増え、つながりが深くなってきました。かわら版を渡す時に『待つとつたよ』と言われるとうれしいですね。毎月1回、各世帯にそれぞれ手渡しで配布するため、一人暮らしの高齢者の見守りにもつながっています。

また、かわら版をきっかけに地域の行事も盛んになり、3月には約500本のキャンドルを防波堤などに灯したペットボトルキャンドル、5月には大きな鯉のぼりを作って川に浮かべた鯉のぼり祭り、7月には約6千個の空き缶を装飾した七夕祭りなど、メンバーの工夫を凝らした演出が好評です。「かわら版もイベントも、私たち自身が楽しんでやっているからこそ続いている。大切なのは心の満足です」と編集長の松崎「二」さん。

ふるさとを思う人たちが力を合わせて作り続ける月一回のかわら版は、地域をつなぐ、未来へ希望をつなぐ、大切な存在となっています。

表紙の絵にスマホやタブレットをかざすとAR動画が見られます！
※BGMには、大島ミチルさん作曲「Nagasaki Green&Blue」を使用しています。

読者プレゼント！
沖田製菓舗
「ジャガメル・ジャコメル」
P15の読者プレゼントの応募方法で、動画の中に出てくるキーワードを書いて応募ください。抽選で5名様にプレゼントします

まずは無料のARアプリ「COCOAR2」をスマホやタブレット端末にダウンロード
App Store / Google Play Store / COCOAR2 検索

「COCOAR2」を起動し、表紙イラスト(P14のレシピの写真も動画が見られます)を読み込んでみましょう。画像を感知すると、自動で動画が再生されます。読み込んだあとは、端末をかざさなくても見ることができます

